

私の一文字

学校と経営者の交流活動推進委員会
委員長
林 礼子

BofA証券
取締役 副社長



「和」をもって道を成す

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月は、林礼子「学校と経営者の交流活動推進委員会」委員長にご登場いただきました。

岡西 「和」は、軍隊の門前にある標識を表す「のぎへん」と、神への誓いの祝詞を納めた器を表す「くち」からできています。軍の敷地の中で戦を止めて、神の前で誓い合う「なごやか」につながっています。お父さまがこの文字を書くのを好まれたと事前に伺っていましたので、脈々つながっていることをイメージして草書体で書きました。

林 実は子どもの時に、家で毎日習字をする時間があったのです。当時は面倒だと思っていましたが、振り返ると心を落ち着かせる時間になっていたのですね。「和」の他に「正道自愛」という言葉も父が好きだったのですが、この2語が私の人生観にもかかわってきたように思います。

岡西 「和」と「正道自愛」は、本質的に心の部分でつながっているような気がします。

林 父は日々習字をしながら、心を貫いたのだろうと後に思いました。私も最近、再び習字を習っていますが、最後の一角まで集中して書くことは相当難しく、自分に向き合うことそのものだと思っています。油断したり、ごまかしたりすると、必ず文字に表れますからね。

岡西 習字はどういう形でされているのですか。

林 実はオンラインでの指導で、九州に住む妹と一緒に月に一度習っています。

岡西 今、あらためて始められたこと自体がすてきです。林さんはずっとグローバルで活躍されてきましたが、日本をどうぞ覧になられていますか。

林 当社は35カ国に20万人強の社員がいて、日本オフィスも多様な国の人で構成されています。地球のあちこちとつながって1日が終わる日々を過ごしていると、出身地や性別・年齢などはまったく関係ありません。違いを認めて、そこからどう新しいものを生み出していくか。ただし時にすれ違いも起きますので、いかにハーモナイズできるかが重要です。人口減の日本がグローバルで成長を遂げていく中で、多様性はより重要です。多様性を取り入れて、共通の価値や目的に向かってハーモナイズする伸びしろが日本の会社は大きいと思いますので、それが今後の道をつくると思います。

岡西 最後に、委員長をされている学校と経営者の交流活動について、今後の展望をお聞かせください。

林 「社会、教育、平和」が私にとってのテーマです。委員会活動で学校で何度か講演をしていますが、驚くのはアンケートで「仕事が楽しいというのは初めて聞いた」という感想が多いことです。それくらい保護者の方も必死で仕事をされているのでしょう。しかし、違う視点があること、いろいろな大人がいることはできるだけ伝えられたらと思っています。私自身も中学校の時に聞いた話が今の選択に影響しています。次世代の人たちの選択肢を広げるような活動として、発展させていきたいと考えています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。